

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田 写真・後藤、北村
山行番. NO.2022・会創立30周年記念山行	
日時 2023年12月29日(土)朝ガス・曇時々晴	
山域 北アルプス・焼岳南峰(2456m)	
コース /28 下土狩 8:00-カモシカスポーツ松本店-中の湯温泉 14:30(前泊) /29 中の湯温泉 6:00(出発)-下堀沢 8:26-焼岳南峰 10:40-11:08~11:28(昼食)-下堀沢 12:17-中の湯温泉 14:10(下山)-そば茶屋「松花」-下土狩 20:30	
標高差 上・下り 中の湯温泉・約1600m~焼岳南峰 2456m=約856m	
難易度 非常に困難 レ困難 やや困難 普通 やや易しい 易しい	
吹雪・ラッセル、青空・樹氷、冬山合宿は豪華だった	
参加者 後藤(77)、加藤、井上、北村、山田=5名	

今回は30周年記念山行・冬山合宿。前日まで唐松岳の予定だったが、雪が少なく自然保護の観点で山荘に泊まれない連絡があり、山域変更で焼岳に行くことになった。前日の12月27日まで仕事をしていたので、焼岳の地図を印刷するのが精一杯で、山の予習する時間



28日、中の湯駐車場(北村)



中の湯夕食(北村)



29日、朝



はあまりとれなかった。

朝8時に長泉を出発。道中、富士山のきれいな笠雲を横目に見ながら、松本方面に向かう。初日は登山口近くの中の湯温泉に泊まる。温泉に着くと一帯は硫黄の匂いに包まれている。チェックインの時間より早く着いたので、歩いて登山口を確認しに出かける。登山口まで林道が続いているが、登山者は林道をショートカットして登っている足跡があるので、そこを辿っていく。もう道はしっかり雪がついているので、登山靴に履き替えたとはいえ、道は思った以上に急坂でアイゼンがないと危ないなと思っていたら、ちょうど焼岳から下山してきた男女ペアと遭遇。

「こんにちは」「焼岳行ってきたの?」「はい」「登山口はこの道で合ってる?」「合ってます」でもこの先もずっと坂なのでアイゼンないと危ないですよ。「ストック貸しましょうか?」この人たちも今日は中の湯温泉に泊まるそうで「じゃあ、あとで返しに行くから貸してもらえます? 助かるわ」と会話成立。

申し出てくれた女性のホスピタリティ。そしてちゃっかりストックを借りたKAさんの抜け目なさ。お陰で転けることなく登山口を確認して温泉に戻ることができた。

中の湯温泉は温泉宿としても有名で、焼岳に登る人だけではなく、温泉目的で泊まりに来ている人もいる。露天風呂からは夕日を受けて赤く染まる穂高連峰の「アーベントロート(夕焼け・独)」を見ることができた。夜の食事も素晴らしかった。

翌朝4時に起床。「イビキランド」と命名され別室に隔離された私とIさんは、隣の部屋から訴えられる程の騒音を出すことはなかったようで、朝食は平和にKAさんの特製鶏鍋でおいしくとることができた。

とにかく雪山は装備がたいへんだ。約半年ぶりの冬山靴でアイゼン装着。手袋も二重。共同装備も分担してザックに詰め込む。夜明け前の6時にヘッドランプをつけて出発。登山口からも急な上りが200メートルくらい続く。天気は雲りでガス、高温。



下部樹林帯(北村)

荷物もアイゼンも重いので、前の人の足元を見て、無心で登る。標高1800mを越えたあたりから下堀沢までは登りは緩やかになる。

一息つけると思っていたら、雪が激しくなってきた。昨日の登山者のトレースを頼りに

歩いていくが、寒さと吹雪で地図やGPSで現在地を確認しづらい。スマホを操作するために手袋を1枚外して、指を動かす。しかし短時間でやらないと、指先がすぎに冷たく痛くなり、手袋をつけ直しても痺れてダメージが大きい。



下掘沢から南峰尾根分岐付近。上ってる2名が正規ルート（下山時の写真）

今回目指すのは焼岳南峰。YAMAPでは北峰しかルート表示がない。今回は北峰ルートの途中から左手に外れて南峰の尾根沿いに登る計画だが、吹雪で南峰の山頂どころか、周囲の様子も見えない。

先頭を進んでいたIさん、KIさん、後方にいたGさん、KAさんと話し合っ、トレースから外れて南峰の尾根に向かってルート変更することにした。

そこからはラッセルで進む。雪の深さは膝上くらい。斜め上に登りながらトラバースをする。Gさんから3羽ガラスで、先頭をローテーションして、体力を消耗しないように進むように言われるが、私は1回目のラッセルですぐにバテて、その後はIさんとKIさんに先頭を務めてもらった。

Iさんは吹雪の中でもストックを両側に広げながら、ずんずんラッセルで進んで登っていく。その姿は、不死鳥のようで心の中で「**フェニックスI**」と命名させてもらった。

2時間半くらい登ったあたりから森林限界も近くなり、風も強くなってきた。そして雲の流れが早くなり、しばらく吹雪がひどかったが、やがて雲の切れ間から青空が見えるよ



ガスガス（北村）



南峰の上り（北村）空が黒いぜ！！

うになった。天気が良くなる気配が出てくると、がんばるエネルギーも湧いてくる。

ここまで登ってきた道中と雲海が広がる下界を眺めて、その景色の美しさに魅了されていたら、頂上が見えた！という声。

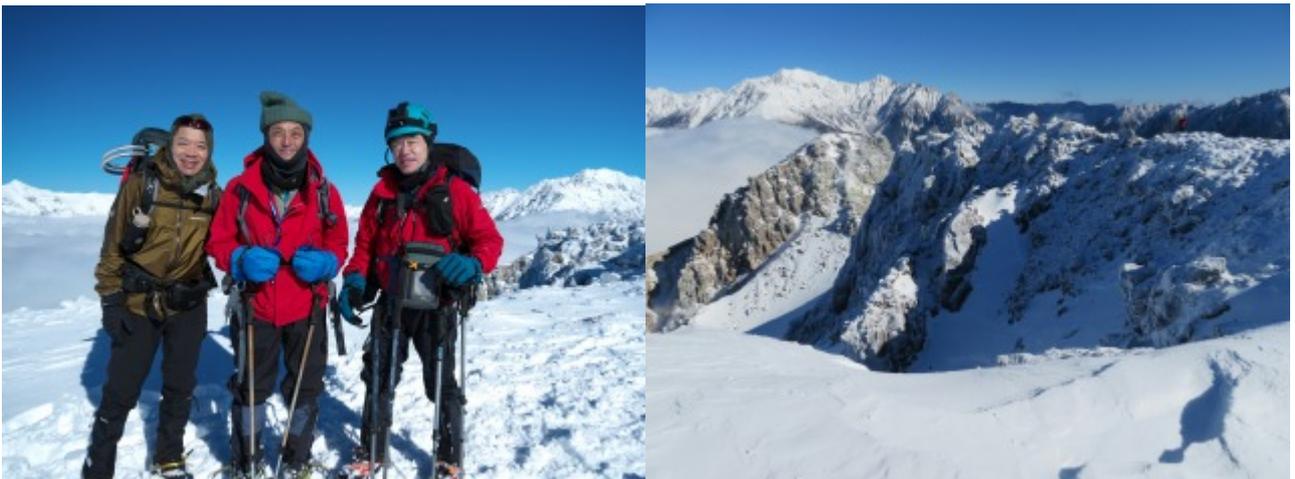
山頂の方角に顔を向けたら、ババーン！と南峰が反り立っていた。これでルートを見失う心配はなくなった。しかし、高いなあ。途中我々の隊を抜かして先を行った若者が山頂付近で米粒のように見える。

標高差では150mぐらい。あと少しなのだが、体力も消耗しているので、心理的に高く見

える。そして実際に山頂手前の地形は急峻だ。きついのは、皆同じ。声を掛け合って、励まし合う。最後はG会長の「れい！」「ほー！」「れい！」「ほー！」と会の名称のかけ声が完成し、テンションMaxで、全員無事、登頂できた。



山頂、やったぜ！！



三兄弟（北村）

南峰山頂の眺望は最高で、穂高連峰だけでなく、槍ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、富士山、乗鞍岳、白山など 360 度パノラマの眺望が楽しめた。隣の焼岳北峰の下部には硫黄煙が確認できた。風がなければ、ここでゆっくり昼食をとりたいところだが、風が強く、寒さもあるので、



下山



(北村)



霞沢岳を愛でながら下山

写真をとって、すぐに下山をはじめた。

南峰を少し降りたコルまで来て、風はやや緩やかになった、ここで昼食をとることとなった。下ってきたら、またガスも出てきたので、早めに食事は済ませたい。私の昼食のメインはアルファ米のリゾットだったが、持ってきたお湯の温度も下がっており、風が強く、手袋が外せないので準備に手間取りそうで、サブの食料として持ってきた食べやすいお稲荷さんを口に入れることにした。

封をあけて、頬張ろうとしたが、3個入りのお稲荷さんは、きれいに揃えてパッケージ



高天原

するために透明の薄いプラスチックトレーで囲まれていた。本来箸でつまんで食べるべきだが、ザックの中から箸を見つけ出せない。仕方がないので、箸は使わず、手袋にお稲荷さんの汁がつかないように袋からお稲荷さんの一つを押し出して、口でうまくつまんで、食べようと試みた。

しかし、なかなかそれがうまくいかないで、私はプラスチックのトレーごとバリバリとお稲荷さんを口に入れて、口の中でトレーとお稲荷さんを分けて魚の骨のようにトレーだけを口から出そうとした。しかし、噛みちぎったプラスチックをすべて口から出すことはできず、お稲荷さんと一緒にプラスチックも飲み込んでしまった。

このあとプラスチックの破片が食道や胃腸を傷つけて具合が悪くなるかもと密かに心配したが、結果的には大丈夫だった。とにかく、過酷な環境下でもすぐにエネルギー補給ができる食料の必要性は、今後の学びになった。

お腹が落ち着いたら、天気も落ち着いて、下堀沢のあたりでは再び快晴に。霧氷や樹氷が空に映えて素晴らしかった。樹林帯を延々と下り、アイゼンの重さで足がクタクタの状態だ。やっと中の湯温泉に到着。そして、すぐに温泉直行。

下山直後に温泉に入れる幸せは、他の何に例えられるだろうか（いや、ないな）。私の2023年幸福感オブ・ザ・イヤー決定だ。吹雪のラッセルは地獄だったが、お湯で温まってしまえば、それもいい思い出。結果的にはとてもいい山だった。

帰路で松本の蕎麦屋さんに寄る。お昼をしっかりとれなかったので、「フェニックス I」さんは、巨大な「山賊焼きセット」で消費カロリーを補充し、Gさんは「清酒・大雪溪」の徳利セットをお店にから箱いっぱいにもらって満面の笑みだった。

2023年の締めくくりとして、また今シーズンの冬山スタートとして華のある山行となった。



「大雪溪の徳利・お猪口」(山田)

参加者の感想・その他の記述

北村・・・初めて冬山合宿に参加させていただきました。

前日から寝食を共にしたことで、いつも以上にメンバーの心は打ち溶けていたと思います。登山当日は加藤さんの栄養たっぷりの手作りごはんを皆で頂いてのスタート。準備に不慣れで一步出遅れた自分を待っていてくれた井上さんと山田さん。

視界悪化から青空と穂高が見えた時「来た来た～」と一緒に歓喜して厳しい上りでは、後藤会長の「レイホー、俺がついてる頑張れ」の言葉に元気をもらい、急登を登り切って登頂した達成感を心から共感し、登山パーティの一員として行動していることを実感できたのがとても嬉しかったです。

日頃から身体を動かし登山の体力維持に努めていましたので、登山全般では、なんとか遅れを取らずについていけたかなと思いましたが、初めてのラッセルでは、井上さんのパワーに圧倒されました。冬山の技量を向上するにあたり、筋力が弱い事に気づいたので無理のない範囲で強化したいと思います。

雪崩を警戒した行動、むやみに手袋を外さない事、悪条件でのワカンの装着など学んだ技術、これからの課題を見出せました。

みんなと登山用品店で買い物、ゆったり露天風呂、皆さんとの和やかな夕食はとっても楽しい時間でした。充実した2日間ありがとうございました。

井上・・・ホワイトアウト、深雪のラッセル、雪の芸術、360度の景色、穂高が見える露天風呂、岩魚の塩焼き、言い尽くせないフルコースでした。

加藤・・・(日)~(火)まで38'5度の熱でうなされ、やっと下がった(木)からの出発。「大丈夫。俺がサポートするから」後藤CLの言葉にほだされ、食当番であった責任感もあり、参加はしたものの体力に不安満載であった。

当日、ガスの中をひたすら登る。後藤CLは言葉通り、早くもなく遅くもなく淡々と登ってくれて、これなら大丈夫かな？と思ったが、標高をあげて突然ガスが切れ、山の全容が見えた時、「わあ～凄い！！」と思うと同時に山の頂上が目に入った。

迫り上がるような岩塊の山に圧倒された。まだ1時間ゆうにかかる。ご飯が食べられなかった3日間が身体に伝わる。もう駄目だ。リタイアだ。此处で待つ。

そう言った時、「レイホー！登るぞ！レイホー！歩け！」後藤CLの掛け声が始まった。つられて歩き出した。

エビの尻尾、風紋、シュカブラが目の中に入り始め、その綺麗さにカメラを撮って最後尾を歩く北村さんに声を出して教える。いつの間にか疲れも忘れ、雪山の素晴らしさに惹き込まれた。

「とうとう登っちゃったよ」頂上からの360度の展望。ガスの中からの緞帳が上がる。山からのご褒美に「登って良かったあ～」しみじみ思う。

「団子三兄弟」の団結力と体力は著しく成長していた。見ていると微笑ましいほどだ。帰路に先行する三兄弟を見て、これからレイホーを担う頼もしい存在だとジジ、ババは話ながらゆっくりと下っていった。

- 後藤・・・
1. 29 早朝、中の湯から、若い警察官が2名出発。聞けば、「釜トンネルで入山する登山者指導」だった。ご苦労様です。
 2. 中の湯ゲートに「伊豆ナンバー車」が1台。宿に長泉町の方が居たらしい。当日、焼岳登山とのことだったが、見かけなかったとのこと。(敵前逃亡??)
 3. 下掘沢でラッセルを頑張った若い衆は、前日＝乗鞍岳、当日＝焼岳、翌日＝槍ヶ岳とのこと。若い衆は凄い上、エライ。
 4. 山頂で二番手ラッセルを頑張った、64歳の方と会話。我々は、77歳・74歳といったら、ぶったまげていた。しかし、彼も翌日、何処かに上るらしい。
 5. 雪が少なく、高山植物の踏み荒らしは、自然保護精神に反してしまった。反省。
 6. 下山途中、ふくらはぎ下部がビビビと激痛。今シーズン初アイゼンの影響か??
 7. ヤマップで、北村さんの報告を見られます。

まとめ・・・合宿は、成功裏に終わったが、Lの私は手放しで喜べなかった。大きな反省点は、焼岳初見の3名を南峰尾根分岐上まで先頭で行かしてしまったことだ。

先頭はマズくなかったが、天候が悪かったから、高天原上の標高点・2037m付近で「待機の指示」をすべきだった。

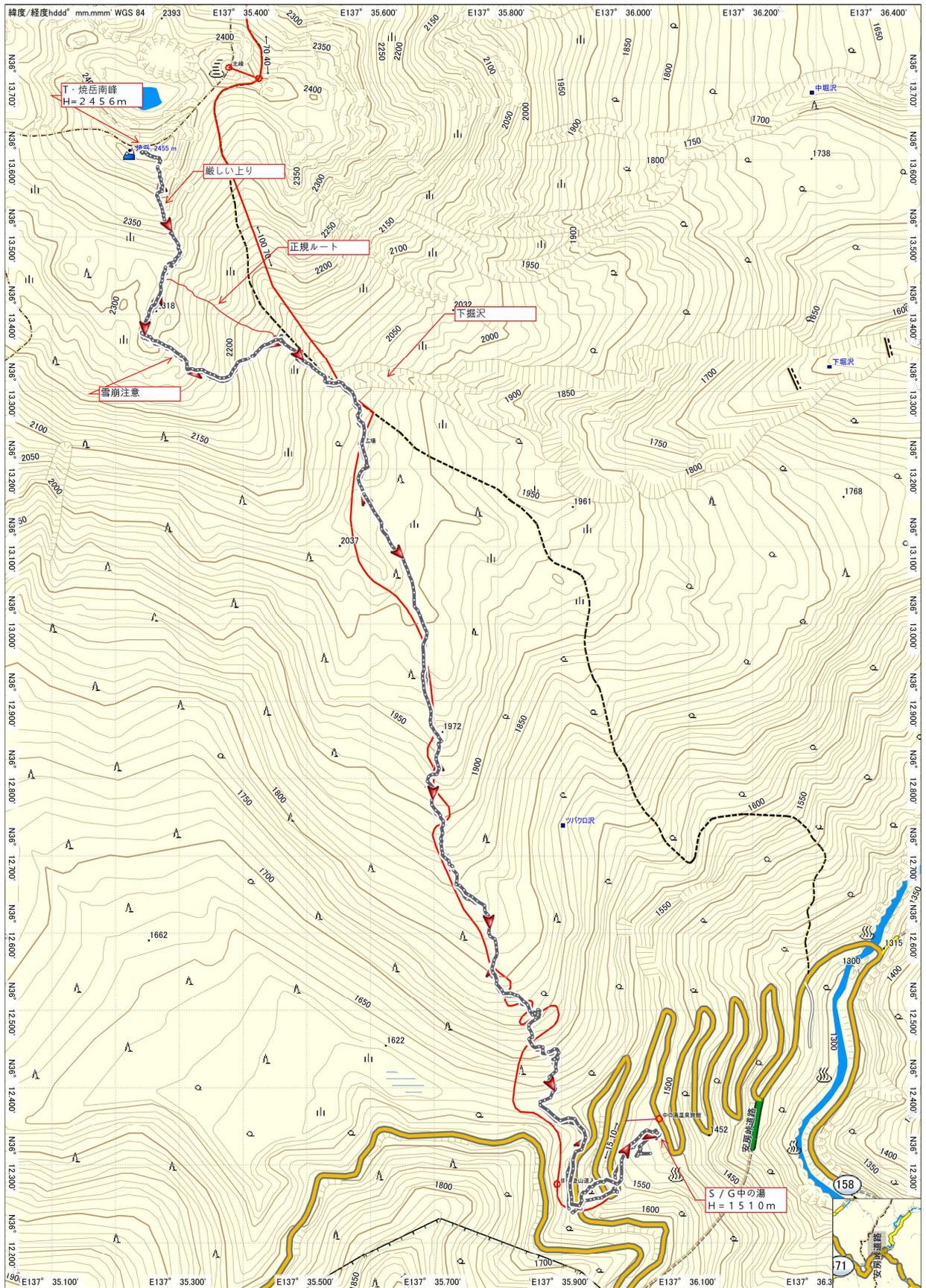
結果、上り過ぎて、尾根でなく危険な斜面を上る結果になった。この斜面は、雪崩リスクでビーコンが必要だった。器械は、私・加藤は持っているが、持参しなかった。今後は、雪崩リスクの雪山登山は、ビーコン必携である。

また、ワカン装着を「現場」で学ぶのは、基本でない。下界で十分、練習を図るべき。そのためには、高いモノでないから、購入したほうが良い。

登山の原則は、「安全・安心・安定」である。その中で、一点でも問題があったら、即、登山は中止すべきである。過去、私は何回か自身・他身の事故を経験した。振り返れば、事故は必ず、その「三原則」に抵触していた。

「いい山に上る、いい登山をする」そのために、努力をしましょう。

以上



Japan Topo 10M Plus V3
 Copyright © 2014
 Garmin Corporation 199-2014

2023/12/30 11:23:29

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN